



里芋の定植 猛暑に備えて 武田江利子さんの畑



温暖化により季節はずれの天気が続く日本、そして世界。5月10日、山形の最低気温は放射冷却により3度。日中は20度ほどで爽やかな風が吹く。ぐると囲む山々は萌え始め、まさに風薫る五月。

そんななか全有連自慢の武田さんの里芋の定植がはじまりました。畑には有機肥料を施し、これまで丁寧に耕運すること3回。土を触ってみると、コロコロとした理想的な団粒構造。小型の耕運機を使ってマルチかけをする姿は、これも丁寧でしなやかに、そして美しい。土を慈しむ女性ならではの農業を感じさせます。そのマルチを見てみると、緑の遮光タイプのもので、透明のマルチの二種類を使っている。理由を訪ねてみると「太陽光を直接受けるものと、そうでないものと違いを試

してみたい」という。里芋の栽培は20年以上だというのに研究を怠らない。これも昨今の異常気象に備えてのこと。

マルチかけを終えるとそこには新しい農機具が。これはじゃがいもや里芋の定植専用機。畝をまたぎ低速で走行しながら、マルチに穴をあけ、土を掘り、里芋を落としていく。一週間もかかっていた骨が折れる定植作業がわずか半日程度の大幅短縮となる。時短というよりもあの重労働からの解放は、米の手植え時代に田植え機が登場したときのイメージに近いほど。

「去年はじめて使ってみたけど、植え付けが深すぎて腐れが出た。今年はその調整しているのでうまくいくはず」「それと猛暑と雨不足で大減収だったので井戸も掘った」と売上げに対して大きな投資額に。減収により離農も考えた武田さん。いつも応援してくれる会員さんにおいしいものを食べてもらいたいという原点に立ち戻り、今期もこうしてを農繁期を迎えることになりました。

今年は、再生産価格の引き上げもありますが、秀品率を高めて売上拡大につなげます。孤軍奮闘する武田さんの応援をお願いします。（佐藤）

今週の生産者ひとこと

全国の生産者の心意気届けます。



新じゃが*大矢野有機さん
春掘りの新じゃがの出荷がようやくはじまりました。糖質が多いイメージがありますがご飯の2割ほど。旬をお楽しみください。



小松菜*坂下農園さん
先月のほうれん草、今週の小松菜で今期は終了。安心でおいしい坂下さんの野菜は、レタス、そして夏野菜へつながります。



果樹だより
さくらんぼは無事着果したようです。このままいけばようやく平年作に期待が高まります。6月の天気はどうか平年並みに。



稲作だより
ついに田圃に水が入りました。昼間は鳥たちが浮いた虫や草をついばみ、夜になると蛙たちの大合唱。まもなく田植えです。